



優先権主張の出願

出願 年 月 日
出願 年 月 日
出願 年 月 日

出願 年 月 日
出願 年 月 日
出願 年 月 日

特許法第38条ただし書の規定による特許出願

48.7.23

特許庁長官殿

昭和 年 月 日

1. 発明の名称

折りたたみ型使い捨てかき

特許請求の範囲に記載された発明の図

2. 発明者

住所 アメリカ合衆国 ウィスコンシン州 ウィンネベグ
ユーナ プルース ストリート 1539番

氏名 ジョン シー エフカート

(ほか1名)

3. 特許出願人

住所 (米国) アメリカ合衆国 ウィスコンシン州 ウィンネベグ
ユーナ プルース コムマーシャル ストリート 1539番

氏名 (名称) キャンペーリ クラーク ローボレーション

代表者 ロバート シー アーネスト

国籍 アメリカ合衆国

4. 代理人

住所 東京都千代田区丸の内3丁目3番15号 電話 (03) 211-8741

氏名 (8977) 弁護士 伊藤盛太郎 (署名)

明 細 書

1. 発明の名称 折りたたみ型使い捨てかき

2. 特許請求の範囲

1. 吸湿パッド、流体透過性内側シート材、不透
過性裏打シート材から成る長辺がおしめの側端
となり短辺がおしめの端縁となるような形状の
ほぼ矩形を成す折りたたみ型使い捨てかきに
おいて、該おしめをその流体透過性内側シート
材を内側としてその長辺側に直交する横断線に
沿って半分に折りたたんであり、かつ該おしめ
の上記横断線の中心点の通常各側方に位置する
一定部分がある長さだけその折りたたみおしめ
の内部へと内方に折り込んでポケットを形成し、
該ポケットの底部を上記横断線のほぼ中心部分
に位置させてあり、かつこのポケットを、上記
横断線上の上記内方折り込みにより形成されて
あり該ポケットの底部からその中心点の所にか
いて各おしめ側方部の方へと遠ざかる1対の内
方に配置し垂直に傾斜した折りたたみ部分によ
って構成してあり、更に4個の外方に配置した

① 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 50 - 33044

④公開日 昭50 (1975) 3. 31

②特願昭 48 - 83494

②出願日 昭48 (1973) 7. 23

審査請求 有 (全6頁)

庁内整理番号

7030.35

⑤日本分類

12/ N5

⑤ Int. Cl²

A41B 13/02

折りたたみ部分が、上記ポケットへ底部から各
おしめ側方部の上記おしめ端部から離れている
束端点の方へと斜めに伸びており、上記内方へ
の折りたたみ部分と外方への折りたたみ部分と
が相互に対面接触する状態に配置してある三角
形のパネル状部分を形成してあり、かつこれら
パネル状部分の対面表面部分を相互に固定する
ようになつてゐる折りたたみ型使い捨てかき。
2. 上記内方に配置した折りたたみ部分と外方に
配置した折りたたみ部分とが、おしめの幾何学
的中心近くから放射状に伸びている特許請求の
範囲第1項によるおしめ。
3. 上記内方に配置してある折りたたみ部分の長
さが、上記横断線の長さの半分以上である特許
請求の範囲第1項によるおしめ。
4. 上記固定手段が、おしめ端部と横断線との間
のほぼ中間に配置してある特許請求の範囲第1
項によるおしめ。
5. 上記吸湿パッドの厚さが、その長手方向に沿
つて中央部分におけるより両側方部分で薄くな

つてゐる特許請求の範囲第1項によるおしめ。

- 4 上記相互対面部分をスポット状接着剤で相互固着する特許請求の範囲第1項によるおしめ。
- 7 上記相互対面部分を熱可塑性フィルムとし、これを熱溶着して固定することから成る特許請求の範囲第1項によるおしめ。
- 8 上記相互対面部分を流体透過性シート材で作る特許請求の範囲第1項によるおしめ。
- 9 上記相互対面部分を、上記透過性シート材を通して該対面部分に隣接する吸湿パッド内へと至る接着剤によつて相互固定してある特許請求の範囲第1項によるおしめ。

2 発明の詳細な説明

従来市販されている使い捨ておしめは、多くの手法で予め折りたたんである。即ち、子供の身体のまわり、とりわけ内股の所に容易にフィットするようになっていると共にそのおしめの中央にあるポケットの中に便をもれないように確実に保つておくことのできるように予め折りたたんである。そしてこのような折りたたみ式おしめの宣伝では、

るようになっており、しかも子供にあてがうに際しては母親がそのおしめの両側縁をちよつと動かすだけで両脚をうまくわいにつつま込むことのできる極く単純な折りたたみ構造のおしめを提供することを意図している。本発明によると、吸湿性パッド、流体透過性シート材及び流体不透過性裏打ち材から成る多層構造の平坦な短形状使い捨ておしめが提供される。この短形おしめは、その長辺側の中央の所で横断方向縁に沿つて透過性シート材を内側に折りたたんであり、また、このおしめの上記横断方向折りたたみ縁の中央部の両側にある部分を、その横断方向縁から離れる方向へと内方に折りたたんでそのおしめの内部へと折り込むことによつて該折りたたみおしめの中央部分に三角形のポケットを形成する。こうすることにより、1対の隣接する内方折りたたみ部分と、2枚の対角縁状外方折りたたみ部分とが出来来る。そして部分的折り込みにより出来た内方折りたたみ部分の隣接内方端縁はポケットの底部から垂直方向に関し傾斜しており、おしめの内部に

母親がそのおしめを単に子供の所定位置につけるだけで極めてうまくその身体にフィットする状態となると強調している。しかし、従来の折りたたみ方法ではその折りたたみ部分はかならずしもおしめの長手方向に対し正確に平行にもまたそれと正確に直交するようになつていないので、そのおしめの折りたたみには極めて複雑な機械運動を要し、従つて、このような折りたたみおしめを大量生産するには極めて精巧かつ高コストの機械装置を必要とする。このような折りたたみおしめの一例は、例えばフルベツキー(Hrubecky)の米国特許第3,174,874号に示すように、1組の複雑な内方折り返し部分と外方折り返し部分とを設けて中央にポケット部分と両側に隣接しつけ部分とをもつほぼV角形のおしめを得るようになってゐる。しかしながら、折りたたみ部分が一層単純であるにもかかわらずその利点において従来宣伝にうたわれているものと変らない同じような形状のおしめを得ることが望まれている。

本発明は、中央にポケットが自動的に形成され

おいては長手方向に関し相互にほぼ平行でも良いし、必要に応じて長手方向中心線から外方に末広がりにしても良い。この折りたたみおしめにおいては、それらの内側折りたたみ部分の内端縁は、相互に端部どうしが重り合つても良いし、相互にやや隔置していても良い、そして、内側折りたたみ縁の開始点を横断方向折りたたみ縁の中心点に対しどのような所に置くかによつてポケット部の底部の巾が狭くなつたり広くなつたりする。折り込みにより形成した外側折りたたみ部分の外端縁は、横断方向折りたたみ縁上のその開始点からおしめ側方の端部近くに来て斜に伸びている。上述のようにして折りたたんだ外側折りたたみ部分の外端縁、内側折りたたみ部分の内端縁及びおしめ側方部分は、それら表面どうしか対面共働する関係の2枚の相互にマツテする三角形パネル部分の側縁を形成している。折り込み部分の内外両側折りたたみ部の端縁により形成される三角形パネル部分の内側表面領域を隣接パネル部分の表面領域に固定することにより、そのおしめを着用するた



め部分的に広げてもその中央にある三角形のポケットの折りたたみ状態の形態をくずすことはない。この部分的に広げたおしめを子供に着用させるには、まず最初に、おしめのポケット頂部に至る外側部分を下方に折り返してそのおしめ側部分が子供の脚にぐわい良くフィットするようにすることが望ましい。

本発明の特徴及び利点について以下実施例を参照し詳細に説明する。

折りたたみ作業前の平坦な状態にある矩形状のままの使い捨ておしめ20を示す第1図において、このおしめは、吸湿パッド21、流体透過性カバーシート材22及び、ポリエチレンのような可塑性の薄いフィルムである流体不透湿性裏打ちシート材23から構成されている。第2図は、流体不透湿性フィルム23によつて吸湿パッド21の端縁のまわりをつつんで流体透過性カバーシート22の底縁にシールした構造の通常のおしめ内部構成を示すものである。

ここに示すおしめの各構成要素は全て、従来の

んだ折りたたみ線は、中心点18から点16へと伸びている。また左側でのセグメント10aを内方に折り込んだ折りたたみ線は、中心点18から点17へと伸びている。同時に、内方への折り込みによつて、右側の対角線14a, 15a、左側の対角線14b, 15bに沿つて外方に位置する折りたたみ部分が出来る。第3図におけるようにこれを上方から見ると、このおしめをあらゆる方法で完全に折りたたんで第4図に示すようなその折りたたみ形状とすると、点18は、おしめの幾何学的中心点の近傍におけるポケットの底部の所に、他方点16と17とは、折りたたみおしめの頂部の所に位置することになる。

第1〜3図の状態から完全に折りたたんだ状態でのおしめの平面図を示す第4図において、ここに示すようにスポット状のニカワその他の適当な接合手段を、このおしめの折りたたみ作業前、作業中又は作業後に、矩形パネル部分CとF、及びDとFの不透湿裏打ちシート材部分の相互隣接面間に介装する。この接合手段については特に

使い捨ておしめに用いられているものであり、従つてその個々の要素それ自体は本発明の要旨と直接関係がなく、またこれまで述べた構造も本発明の要旨とする所ではない。

本発明の新規な技術思想は、おしめの特殊な折りたたみ状態と、このおしめの使用中にその部分的折りたたみ形状を維持できるようにおしめ折りたたみ部分の相互接合面とおしめを接合できる適当な取付け手段とを提供することにある。

第1図に示すおしめ20の平面図において、破線10a, 10b, 14a, 14b及び15a, 15bは、おしめをパネルA〜Fで示すような短形セグメントに折りたたむ折りたたみ線である。

第3図においては、折りたたみ線の内外折りたたみ方向を強調して示してある。中央横断線に沿つた折りたたみによつてセグメント10a, 10bを構成する。このおしめは、これらのセグメントに沿つて中心点18の各側方から直接内方に折り込んである。この部分的折りたたみ状態を示すように、セグメント10aを右側で内方に折り込

第4図に詳細に示してある。このようにパネル部分の相互対面表面を接合する手段を設けることによつて、折りたたみ作業によつて得たポケット18を固定に保持し、かつその折りたたみ部分の相互接合域をその確実な接合状態に維持しておくことができ、従つて、このおしめを子供にあてようとして部分的に広げても、ポケットの形状がくずれることはない。なお図面に示すように、折りたたみ部分の相互接合領域はおしめ端部とその横断方向折りたたみ線とのほぼ中間の所に設けることが好ましい。このおしめを子供にあてるには、まず母親がそのおしめの点16, 17から放射状に伴ひる側方部分を下方に折つて子供の脚にうまくフィットするようにすることが望ましい。

ここに示すようにこの折りたたみおしめ内にポケットを形成するパネル部分の相互隣接面の間に接合手段を設けることは、このおしめの使い勝手と云う面から見て非常に重要なことである。このような手段を設けてないと、おしめは、それを子供につけている間に場合によつてはその前に、形

がくずれ、所望のポケット形状を保持し得ない恐れがある。

別の実施例を示す第3図によると、ここではポケットの底部が、横断方向折りたたみ線に沿って短い距離だけ伸びていることによつて、横断線の中央部の所に、第4図に示すような深いポケット15ではなくやや細長い折りたたみセグメント12が出来ることになる。この状態では、相互に対抗する三角形パネル部分13によつて、そのおしめの全平坦領域が狭くなりまたポケットは浅いものとなる。そして、このおしめを広げた時にポケットが歪くずれしないようにするためには、勿論、相互に隣するパネル部分表面間に接着剤スポットのような適当な取付け手段を設けておくことが必要である。このタイプのおしめを子供にあてる手法は先に述べた通りである。

別の実施例に係る吸湿性パッドの折りたたみ前の状態を断面にて示す第5図を参照すると、ここでは、カバーシート材23と裏打ちシート材22との間に、長手方向側縁部分で薄く長手方向中

央部分で厚い形の吸湿パッド21を差入れてある。吸湿パッドをこのようにすることによつて、そのおしめの側縁部分がかさばらず、従つて、これを子供にあてようとする場合創合容易に折り返すことができる。このような断面形状の吸湿パッドは、上述のような本発明に係るおしめに良く利用することができる。

取付け手段30、31は図面では丸いスポットとして示したけれども、これらは勿論、その設ける位置が図示のような所である限り、四辺形でも菱形でもその他線状であつても良い。

また第6図に示すように、この取付け手段は、フィルム状裏打ちシート材の対面表面間につけることが好ましいが、しかしながら、これは、流体透過性の子供の皮膚に接するシート材の表面の方につけても良いし、またこの透過性シート材を巻き通つてくるようにしても良い。この後者の場合にはそれにより吸湿パッドそれ自体も固定できる。

また皮膚に接する所のパネル部分をポリエチレンのような熱可塑性フィルムとする時には、その

接合は、該フィルムを熱溶着することにより得ることもできる。

● 図面の簡単な説明

第1図は、本発明により折りたたむに適した平坦な短形おしめのコーナ部分を切除して示す平面図。

第2図は、第1図の線A-Aに沿つた断面図。

第3図は、第1図に示すおしめのその破線に沿つて部分的に折りたたんだ状態での斜視図。

第4図は、第3図のおしめを完全に折りたたんだ状態での平面図。

第5図は、第4図の線B-Bに沿つた断面図。

第6図は、別の実施例の平面図。

第7図は、おしめを折りたたむ前の吸湿パッドの内部構造を示す平坦状態でのおしめの断面図である。

20、おしめ；21、吸湿パッド；22、流体透過性シート材；23、不透過性裏打ちシート材；10a、10b、11a、11b、12a、12

b、折りたたみ線；A～F、パネル部分；13、中心点；14、ポケット；

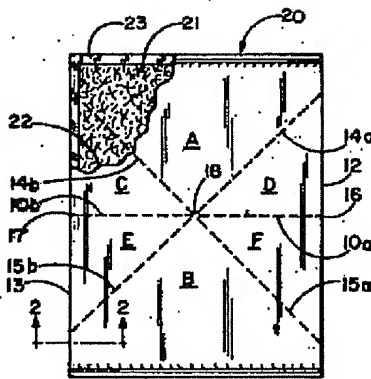


FIG. 1

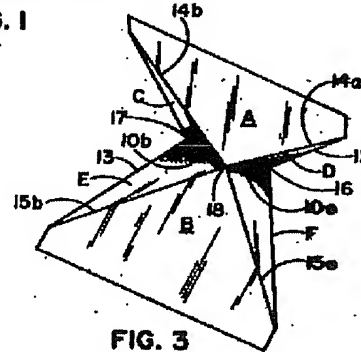


FIG. 3

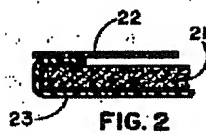


FIG. 2

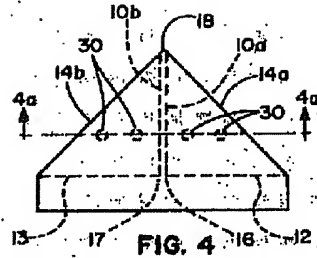


FIG. 4

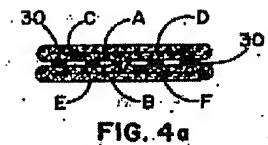


FIG. 4a

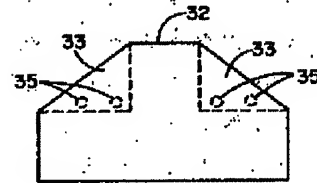


FIG. 5

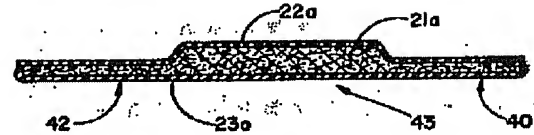


FIG. 6

5. 添附書類の目録
- | | |
|----------------|-----|
| (1) 明 示 書 | 1通 |
| (2) 図 面 | 1通 |
| (3) 委任状及原文 | 各1通 |
| (4) 特許出願書 | 1通 |
| (5) 特許出願書 | 1通 |
| (6) 法人登録証明書及原文 | 各1通 |

6. 前記以外の発明者、特許出願人および代理人
- (1) 発 明 者
- 住 所 アメリカ合衆国 ウィスコンシン州 ウィンネベ
グーナ クスラー ドライブ 625
- 氏 名 ケネス エム エンロー
- (2) 特許出願人
- 住 所 (居所)
- 氏 名 (名称) な し
- 代表者
- 頭 籍
- (3) 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号 電話 (日) 211-6741

氏 名

同 (6000) 弁理士 熊 倉

同 (6254) 弁理士 山 本

補 正 書

昭和 年 月 日 49.4.16

特 許 庁 長 官 斎 藤 英 雄 殿

特 許 庁 殿

1. 事件の表示 昭和49年特願第 3494 号

2. 名 称 折りたたみ型使い捨ておしめ

3. 補正をする者

事件との関係 出願人 特許出願人

氏名(名称) ヤムベリ クラーク コーポレーション

4. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号

氏名(2977) 弁理士 伊 藤 豊 太 郎 外2名

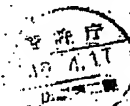
5. 補正命令の日付

6. 補正により増加する発明の数 (本補正により特許請求の範囲に記載された発明の数は合計 1 となりました。)

7. 補正の対象 明細書の特許請求の範囲の欄

8. 補正の内容

別紙記載の通り



特許請求の範囲

吸塵パッド、流体透過性内側シート材、不透透性裏打シート材から成る長辺がおしめの側端となり短辺がおしめの端縁となるような形状のほぼ矩形を成す折りたたみ型使い捨ておしめにおいて、該おしめをその流体透過性内側シート材を内側としてその長辺側に直交する横断線に沿つて半分に折りたたんであり、かつ該おしめの上記横断線の中心点の通常各側方に位置する一定部分にある長さだけその折りたたみおしめの内部へと内方に折り込んでポケットを形成し、該ポケットの底部を上記横断線のほぼ中心部分に位置させてあり、かつこのポケットを、上記横断線上の上記内方折り込みにより形成されており該ポケットの底部からその中心点の所において各おしめ側方部の方へと適さかるノ対の内方に配置し垂直に傾斜した折りたたみ部分によつて構成してあり、更に4個の外方に配置した折りたたみ部分が、上記ポケットへ底部から各おしめ側方部の上記おしめ端部から離れている末端点の方へと斜めに伸びてあり、上記

内方への折りたたみ部分と外方への折りたたみ部分とが相互に対面接触する状態に配置してある三角形のパネル状部分を形成しており、かつこれらパネル状部分の対面表面部分を相互に固定するようになつてゐる折りたたみ型使い捨ておしめ。